

ILSI Japan 活動報告<84>

【部会・分科会活動報告】 2020年9,10月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>【芽胞菌研究分科会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗なし <p>【チルド勉強会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗なし。 ・11/19に勉強会および打ち合わせ予定（Web開催）。 <p>【MALDI-TOF/MS分科会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NITE-ILSI連携協定に基づいた打ち合わせをZoomにて実施し、コロナ禍における現状およびMALDI-MS等の迅速検査法の可能性について議論を実施（9月25日）。 ・2021年3月末で期限を向かえるNITEとの連携協定の延長を口頭にて合意。 ・島津製MALDI-MSのデータベースファイルであるSuperSpectra作成のノウハウ勉強会をZoomにて開催する予定であり、現在詳細を調整中（11月10日）。 <p>【国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SARS-CoV-2と食品安全との関係に関する国際食品微生物規格委員会の意見書について」を和訳し、ILSI Japan ホームページにアップ。 ・分科会ホームページの作成について、業者と初回打ち合わせを実施。
	食品リスク研究部会	<p>2020年度第3回目の部会を開催（10月7日Web会議）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規活動「"A Natural Mistake: Why natural, organic, and botanical products are not as safe as you think" (Dr. Jim MacGregor 著)」の情報発信として、翻訳本の出版に加えてシンポジウムの開催を検討。シンポジウムの概要（形式、日程、集客人数等）、コンセプト、演題案を協議し、概ね合意した。 ・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」の報告書について11月初までに初案を作成し、部会で協議することとした。2021年5月発行予定のイルシー誌への投稿を目指す。
	香料研究部会	特に進捗なし。

A A T P ロ ジ エ ク ト	全体進捗	<p>① 国際 WS とシンポの同時開催と情報発信および ② 2 つの研究テーマ推進による評価戦略の構築と実装、を両輪とする活動を国立医薬品食品衛生研究所、AI-SHIPS、NITE 等の多数のアカデミアや学会およびアジアや EU の ILSI 支部と連携しながら進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会議を開催 (9/8)。各 WG の進捗と今後の活動方針・計画を共有し、承認した。安全性評価戦略の構築と実装の加速を目的とした新 WG であるケースレポート作成 WG の活動計画が説明され、活動がスタートした。また、AI-SHIPS コンソーシアムの詳細な活動情報を共有した。 ・全体会議後に AAT プロジェクト参画会社限定でオンラインにて講演会を開催し、FDA のワーキングや EU の次期プロジェクト等の欧米の代替法開発の最新動向を解説いただいた。講演内容は「フラッシュ・レポート」としてイルシー誌に掲載予定。 講師：小島肇先生 (国立医薬品食品衛生研究所室長) 演題：代替法開発に向けた最新動向・海外の動きを中心にして 参加者：約 50 名 ・コアメンバー会議を開催し、国際 WS における海外演者の見直しやパネルディスカッションの方向性等について議論した。11 月に小島先生と議論した上で日本側最終案を確定させる。
	2020 国際ワークショップ&シンポジウム WG (ILSI Europe 協働)	<p>【概要】 食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として国際 WS を限定公開 (AAT 関連メンバー等) にて、さらに国際シンポ (公開) を同会場で開催する。なお、延期した開催時期は 2021/10/21~22、会場は KFC ホール両国とした。</p> <p>【進捗】 国際 WS 及び国際シンポの延期開催が 2021/10/21~22 に決定したことを受け、同時期に開催可能な会場並びに宿泊施設を都内中心に調査・内覧し、会場は KFC ホール両国、ホテルは第一ホテル両国に決定した。会場及び同時通訳に関して、施設・設備、レイアウト、当日を含めた段取り等及び費用の概算を確認した。論文投稿については投稿先編集部と論文の構成・文字数等について協議を継続する。また、欧州の演者について ILSI Europe に確認するとともに、北米の演者について FDA を中心に再調査を開始した。さらに WS Panel Discussion の進め方及び WS-Statement 具体化について協議し、欧米の演者を決定後に日米欧 3 局で打合せを行うこととした。</p>
	腸管吸収 WG	<p>【概要】 動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬科大学 山崎研究室の動態予測 (<i>in silico</i>) モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】 食品成分のヒト吸収性および血中動態予測フロー (案) に関して山崎先生ら関係者と議論した。All <i>in silico</i> での予測は現状難しく、腸管膜透過に関して <i>in vitro</i> 試験が必要な場合があることを確認した。また、<i>in vitro</i> 試験の実験条件の詳細を確認しつつ、適用範囲の考え方 (案) を共有し、大枠で合意した。</p>

データベース WG	<p>【概要】食品成分の既存毒性情報（文献等）を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】先行登録物質 42 種について 37 種までの登録を完了。予定通り進捗しており、10 月中に終了予定。これら先行登録物質の活用による食品成分の毒性予測性向上の検証方法について検討を進め、NITE との議論の場を設定。ケースレポート WG と連携し、毒性を有する化合物の選定及び予測スキームの検討を開始した。</p>
ケースレポート WG	<p>【概要】NAMs を用いた食品成分の安全性評価戦略の具体化と実装の加速を目的に、腸管吸収 WG とデータベース WG の活動を起点に、<i>in vitro</i> assay 系を加えたリスク評価戦略の具体事例を作成し、ケースレポートとして発信する。</p> <p>【進捗】9 月度全体会議にて WG の概要と活動方針を共有し、合意を得た。ワーキングメンバーを募集し、評価戦略の具体化とケースレポートの対象物質について検討を開始した。</p>
バイオテクノロジー研究会	<p>1. ERA 報告事業 定例の官公庁向け ERA 報告事業を COVID-19 対応で各種 Web 会議で対応（9/7, 9/8, 9/24）。食品安全委員会事務局訪問（9/17）AFSI の設立について説明、ERA 報告書 51 号および ERA 報告書集約版のご説明を実施。</p> <p>2. 遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価に関する現状と展望 -遺伝子組換え作物のデータトランスポートビリティについて- 開催 日時：2020 年 10 月 8 日木曜日 14:00-17:30 場所：Teams 会議（Web 会議） （演者・勉強会事務局：TKP 秋葉原カンファレンスセンター） 参加者数：オンライン参加 49 名、会場 12 名</p> <p>演題：</p> <p>ILSI Japan における隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティに関するこれまでの取組みと今後の論点 ILSI Japan 中井 秀一 氏 農林水産省におけるこれまでのデータトランスポートビリティの取組み 農林水産省消費・安全局 審査官 高島 賢 氏 遺伝子組換えダイズの国内隔離ほ場試験に関する論文（Matsushita et al., 2020）の紹介 ILSI Japan 松下 茜 氏 日本におけるデータトランスポートビリティに関する現状と論点の整理 ILSI Japan 高本 圭 氏 隔離ほ場試験の意義と留意点 筑波大学 生命環境系 教授 佐藤 忍 氏</p> <p>3. 10 月 19 日に第 5 回目会議を開催（リモート会議） (1) ERA プロジェクト調査報告書 ・第 53 号の勉強会：10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 (2) ILSI ERA 勉強会遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価に関</p>

		<p>する現状と展望 -遺伝子組換え作物のデータトランスポート リティについて- 開催 (2. に報告と同内容)</p> <p>(3) ERA 報告事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021 年度より、研究会開催および ERA 報告事業を年 6 回から 4 回に削減することが決定された。 <p>(4) 会計報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算進捗を確認した。
栄養健康研究会	栄養研究部会	<p>1. 2020 年度 第 2 回目の部会を Web (Zoom) で開催 (9 月 2 日、15:00~16:30) し、以下の方針で合意した。</p> <p>① 栄養研究部会の HP の更新案 (部会長と事務局に一任)。</p> <p>② 「栄養・運動と免疫機能」の領域のトピックスと先生のアンケート調査結果 (計、26 件 : 26 名の先生) の共有。次回の部会までに、トピックスの絞り込み (カテゴリー分け) を行うことにした。</p> <p>③ 原稿締め切りが 2020 年 11 月 15 日のイルシー誌 (No.145、2021 年 2 月発行) に原稿が間に合えば、栄養研究部会の新たな活動 (定期的な勉強会 (講演会) など) を紹介する記事を作成し提出することにした。</p> <p>2. 2020 年度 第 3 回目の部会を Web (Zoom) で開催 (9 月 15 日、15:00~17:00) し、以下の方針で合意した。</p> <p>① 「栄養・運動と免疫機能」の領域の 26 件のトピックスについて、カテゴリー分類し、日頃の勉強会 (講演会) で優先すべきトピックス 8 件 (8 名の候補の先生) に絞り込んだ。</p> <p>3. ILSI Japan 理事の清水先生 (東京農業大学) をお招きし、2020 年度 第 4 回目の部会を Web (Zoom) で開催 (10 月 2 日、10:30~11:30) し、勉強会案についてアドバイスをいただいた。</p> <p>4. 2021 年 ILSI Japan 研究会・研究部会 活動計画書・予算申請書 (活動の名称 : 栄養と運動が免疫機能に及ぼす影響についての最新の情報の収集と発信) を事務局に提出した (10 月 23 日)。</p>
	GR プロジェクト	特に進捗なし。
	茶類研究部会・茶情報分科会	特に進捗なし。
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ~元気で長生きのための運動・栄養プログラム~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墨田区の介護予防事業「すみだテイクテン教室」(16 年目) 開始 9 月 8 日, 10 日, 11 日, 23 日, 25 日, 29 日, 10 月 6 日, 7 日, 9 日, 20 日, 21 日, 23 日 (会場 : 八広はなみずき高齢者支援総合センター, 墨田区総合体育館, 本所地域プラザ「BIG SHIP」) ・新型コロナウイルス感染拡大下において、外出を控えている墨田区民への対応として「すみだテイクテン教室」の内容を簡単に説明する VTR を製作し完成。YouTube に掲載予定。
	Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジ	<p>◇ 栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミャンマープロジェクト : JICA との共同事業として進めることを前提に、JICA、JICA の委託先コンサルタント会社、ILSI、中村学園大学で、来年 5 月の工場での介入試験立ち上げを目指した打ち

	エクト	<p>合せを進めた。在日ミャンマー大使館を訪問しプロジェクトの説明を行った。11月末・12月に保健スポーツ省とのWeb会議を実施する方向で準備を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアプロジェクト;プロジェクトの進行の可能性について、富士通総研から引きついだ富士通グループの新会社 Ridgelinez 株式会社 と ILSI が共同で、来年3月までにNJPPPへのプロジェクト提案(スマートフォンを使った栄養啓発システムの再検証)を行うこととした(11月承認を目指す)。 																									
	CHP 全体	特になし。																									
国際協力委員会		<p>オンライン会合を9/24、10/28に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BeSeTo会議(ソウル)が中止となったが、中村事務局長よりILSI各支部(中国、韓国、台湾、SEA及びインド)と調整し、オンラインでの代替会議開催(12/2 半日)が決定。会議に向けた最近の国内関連法規トピックスとプレゼン担当割について打合せを行った。 ・滑川委員が食品産業コーデックス対策委員会(9/15)に参加。情報共有があった。 																									
食品機能性研究会	AI 栄養・機能性研究部会	<p>ILSI Japanの新共同研究講座について、7月の理事会で承認され、「AI 栄養・機能性研究部会」の開設に向けた検討を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会の開催 参加者の募集のための説明会を6回実施した(8月22日午前、午後、25日、9月1日、7日、15日)。参加者は、ILSI会員企業が27社47名、会員以外の企業様が28社43名であった。 ・申し込み状況 10月末時点で、9社から参加企業の申込があった。新たにILSI会員となった企業は1社であった。 ・開講オリエンテーション 新共同研究講座の開講に向けたオリエンテーションを10月5日に、WEBで開催し、9社25名が参加した。 ・研究オリエンテーション 東北大学未来科学技術共同研究センター主催の「AI ディアτροφイ研究部門」(10月22日)、国立健康・栄養研究所主催の「AI 栄養機能プロジェクト」(10月23、30日)に、オリエンテーションを開催した。 																									
情報委員会		<p>●栄養学レビュー 全体スケジュール [「ヨ」: 予定]</p> <table border="1" data-bbox="671 1491 1479 1688"> <thead> <tr> <th></th> <th>編集会議</th> <th>翻訳締</th> <th>監修締</th> <th>発行</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・Vol.110 29-1</td> <td>5/11</td> <td>7/末</td> <td>8/末</td> <td>11/10</td> </tr> <tr> <td>・Vol.111 29-2</td> <td>8/11</td> <td>10/末</td> <td>11/末ヨ</td> <td>2/10ヨ</td> </tr> <tr> <td>・Vol.112 29-3</td> <td>11/13ヨ</td> <td>1/末ヨ</td> <td>2/末ヨ</td> <td>5/10ヨ</td> </tr> <tr> <td>・Vol.113 29-4</td> <td>未定</td> <td>4/末ヨ</td> <td>5/末ヨ</td> <td>8/末ヨ</td> </tr> </tbody> </table> <p>●Vol.110 29-1<2020年秋> 対象誌: Nutrition Reviews 78(2)-78(4) 編集会議: 5/11 5報採択(OUP承認7/22) ⇒9月初旬までに監修原稿受領 ⇒初校⇒再校⇒翻訳者 feed back ⇒10/6再校時打合せ ⇒10/20色校正了⇒10/27 OUP承認取得⇒11/10発行</p> <p>●Vol.111 29-2<2021年冬> 対象誌: Nutrition Reviews 78(5)-78(7)</p>		編集会議	翻訳締	監修締	発行	・Vol.110 29-1	5/11	7/末	8/末	11/10	・Vol.111 29-2	8/11	10/末	11/末ヨ	2/10ヨ	・Vol.112 29-3	11/13ヨ	1/末ヨ	2/末ヨ	5/10ヨ	・Vol.113 29-4	未定	4/末ヨ	5/末ヨ	8/末ヨ
	編集会議	翻訳締	監修締	発行																							
・Vol.110 29-1	5/11	7/末	8/末	11/10																							
・Vol.111 29-2	8/11	10/末	11/末ヨ	2/10ヨ																							
・Vol.112 29-3	11/13ヨ	1/末ヨ	2/末ヨ	5/10ヨ																							
・Vol.113 29-4	未定	4/末ヨ	5/末ヨ	8/末ヨ																							

	<p>編集会議：8/11 5報採択（OUP承認 10/28） ⇒5報とも翻訳原稿受領⇒監修依頼中 監修締切は11/末</p> <p>●Vol.112 29-3<2021年春> 対象誌：Nutrition Reviews 78(8)-78(10) 対象誌は3号とも発行済み（対象論文数：17）要旨翻訳済み ⇒11/13編集会議 掲載論文選考予定</p> <p>●次回編集会議 11/13（金）16時～（Web） 議題：通巻112号（2021年5月発刊予定）掲載論文選定 対象誌：Nutrition Reviews 78(8)-78(10)</p>
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」143号発行 ・「イルシー」144号、145号編集 ・来年、創立40周年を迎えるにあたり、40周年記念号を検討、記念ロゴを作成。

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第5回理事会が令和2年10月13日（火）に開催された。</p> <p><決議事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理事退任と新任理事の選任 木村毅理事の退任と味の素（株）の児島宏之氏の選任が承認された。 2. 2021年度 ILSI Japan Assembly メンバー選任 アカデミア代表として宮澤陽夫会長が再任、産業代表として谷口茂理事の新任が承認された。 3. 書類保管、破棄方針、内部通報方針施行の承認 上記方針の施行が承認された。 <p><報告、討議事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新研究講座状況報告 7月28日から9月9日まで協会、学会、関係各省、新聞、日経バイオテク web 記事にて広報活動を実施。説明会は会員向けに3回、非会員向けに3回実施。10月5日に開講オリエンテーションを実施した。今後の予定を説明した。 2. ILSI Japan 収支見込み及び2021年予算案 2020年収支見込、21年予算収支について ILSI Japan と CHP に分け説明した。CHP の今後の活動と進め方について提案し意見交換をした。 3. ILSI Japan 創立40周年記念行事案 来年創立40周年を迎え2案を提案した。① 記念シンポジウムの開催。② 季刊イルシー誌への記念ロゴ掲載と記念シンポジウムレポートの掲載。 4. 各研究部会活動報告 バイオテクノロジー研究会、栄養研究部会、食品微生物研究部会の活動状況と今後の予定を説明した。 5. ILSI Global の動向 ○グローバルリサーチ提案 Global Assembly の東南アジア支部理事長より「Nutrition, Immunity, COVID-19 and Future Viral Epidemics」というテーマで ILSI Global 共通の大規模研究プロジェクトを遂行する提案があった。
-----	--

	○情報発信 COVID-19 と栄養・運動・免疫といったテーマで、欧米、中南米、アジアでウェビナーによる情報発信（信頼ある科学情報の発信）を実施されている。
事務局	特になし。